

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

高橋 隆 副総長「第26回日本癌学会吉田富三賞」を受賞

吉田富三賞とは

近代がん研究の祖と言われる偉大な吉田富三博士（1903-1973）を記念して、日本癌学会が1992年に設けた最も歴史のある学術賞です。毎年1名のがん研究者に与えられます。

高橋副総長は、ヒト肺がんの発生機序の解明を目指した研究に一貫して取り組み、p53遺伝子やlet-7マイクロRNAなどの高頻度の異常や、肺腺がんのリネジ生存がん遺伝子としてのTTF-1とその標的遺伝子ROR1の重要性を世界に先駆けて報告し、これら分子機能の解明と臨床病態形成における重要性を明らかとしてきました。これらの多岐に亘り展開してきた新規性と独自性に富んだ研究が、肺がんの分子病因の解明に大きく貢献したことが評価されたものです。

高橋副総長からのひと言

当センター研究所は、私にとって研究者としての生まれ故郷です。この度、恩師の高橋利忠博士（名誉総長）と上田龍三博士・研究所化学療法部部长（在籍時）に続けたことは大変光栄であるとともに、次世代のために貢献しなければと身の引き締まる思いです。



信頼され、選ばれる病院を目指しています。

当院では、地域の先生方とよりよい連携を構築するため、平成27年度から紹介患者受付窓口を土曜日稼働させ、平成28年度からは医療機関から検査予約が直接できる「内視鏡検査予約システム」の運用開始や、連携先医療機関から当院の患者さんの医師看護記録や画像、経過表等が閲覧できる地域医療連携ネットワークシステム「愛がんネット」をスタートさせるなど、様々な取組を行っています。

また、がんに罹患し来院いただいた患者さんには、安全かつ高度で専門的ながん医療を提供することはもちろんのこと、医療費や就労をはじめとした様々な悩みについて気軽に相談できる「相談支援センター」、身体的・心理的苦痛についてのつらさを多職種チームでサポートする「緩和ケアセンター」を設置し、ご家族も含めてフォローアップできる体制を整えています。



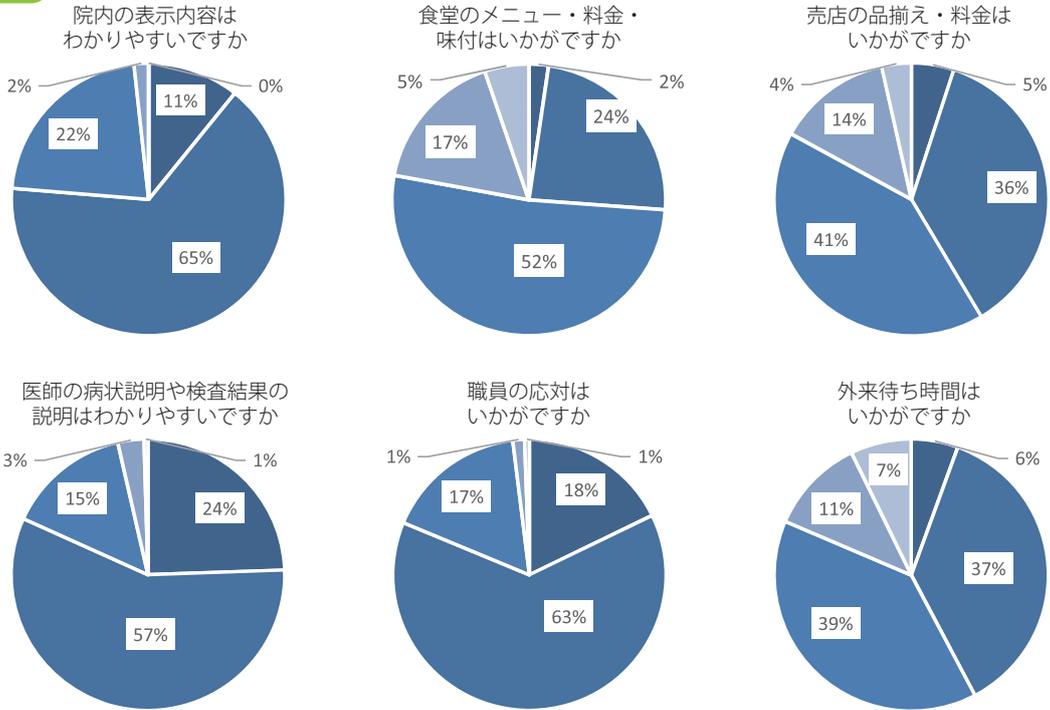
今後も患者さんや地域の先生方にとって「信頼され、選ばれる病院」であるよう日々努力してまいります。

患者満足度調査から見えること 今後の改善に向けて2017

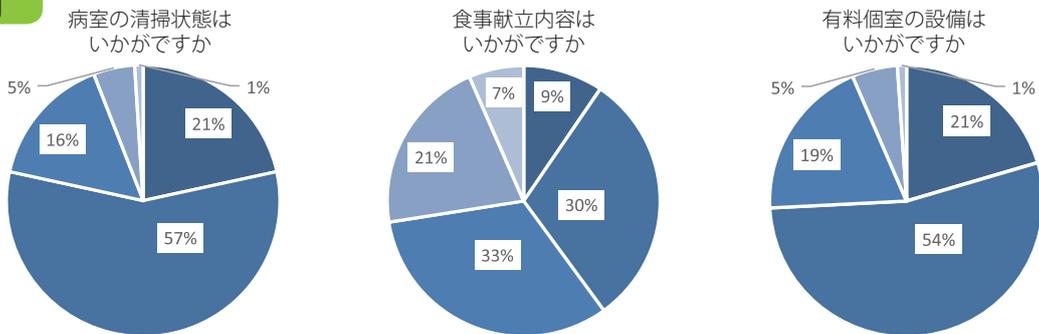
愛知県がんセンター中央病院では、安全で安心な医療サービスを提供するため、外来患者さんや入院患者さんのご協力をいただき、平成29年10月4日から5日にかけて「患者満足度調査」を実施いたしました。その結果をお知らせいたします。（※全ての調査項目につきましては、ホームページで公開します。）

※項目 ■非常に満足 ■満足 ■どちらとも言えない ■やや不満 ■不満

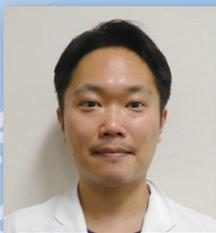
○外来部門



○入院部門



新任医師の紹介



放射線治療部
田中 寛



消化器内科部
岩屋 博道



婦人科部
竹下 奨



婦人科部
坂田 純

改善に向けた取り組み ～2017年患者満足度調査を受けて～

○院内の案内表示について

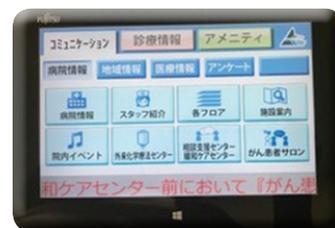
院内の案内表示については、来院していただける方の立場に立った改善を重ねておりますが、今後とも意見をもとにさらに改善を重ねてまいります。現在、場所等の案内がわからないと迷われるときは、近くの看護師等に気軽に声をかけていただければと思います。また、外来再診受付付近に看護師を1名配置しております。診療のこと、場所への行き方、どんなことでも良いので気軽にお声をおかけください。

○食堂のメニュー・料金・味付け、売店の品ぞろえ・料金について

売店・食堂のメニューについては、月に1回、病院側と業者との話し合いの場を設けております。そこで患者・家族の方々のご意見を伝え改善を要求しています。食堂では新しいメニューと一緒に考え、売店では医療に関する品ぞろえ、また、欠品のないように病院側の意見・要求も伝えています。是非ご利用になられるの方々のご意見をこれからもお聞かせいただき、食堂メニュー・売店の改善に努めてまいります。

○外来待ち時間について

外来待ち時間については、外来部門や患者サービス委員会で検討を重ねております。待ち時間の減少にすぐに結びつくことではないかもしれませんが、①診療科の受付で待ち時間の目安を伝えさせていただく②受付票にあるQRコードから、携帯・スマートフォンで現在の診療状況の確認や、呼び出しメールの設定をすることができる機能の利用推進③スマートフォンなどの使用が苦手な方には、診察の順番が近くになったら、外来スタッフから、電話によるお知らせをすることなどに取り組んでおります。また、外来待合室でのタブレットの使用を開始し、動画による検査・入院説明、かのこ文庫の図書リストなどが見られるようになりました。是非待ち時間にご活用ください。QRコードの使用、携帯呼び出し、タブレットの使用について、ご不明な点がございましたら、遠慮なく看護師に声をおかけください。



○食事献立内容について

食事の献立内容については、ご要望があったパンの日を設け、食パンだけではなく、クロワッサンなども提供できるようにしました。少しずつですが、満足していただけるよう工夫しております。今後もアンケートを参考にしながら、新しいことにチャレンジしていきたいと考えております。



○接遇について

毎年、年に1回、全職員対象に研修会を開催し、接遇の教育に努めております。今後も安全で安心して頂ける診療サービス提供に職員一同取り組んでまいります。

H29患者サービス委員会委員長 山崎祥子

中部地区がん医療連携学術 講演会のお知らせ

近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、医療従事者を対象に「第8回中部地区がん医療連携学術講演会」を開催します。講演会では、「がんゲノム医療」など最新のがん医療を紹介いたします。

〈第8回中部地区がん医療連携学術講演会〉
日時 平成30年3月3日(土) 17:00～
会場 ホテルメルパルク名古屋

篠田雅幸 前院長 「厚生労働大臣表彰」に輝く

平成29年度の社会保険診療報酬支払基金関係功労者厚生労働大臣表彰において、同基金審査委員の篠田雅幸 前院長が、多年にわたり同基金を通じ医療保険制度の発展に貢献されたご功績により、表彰されました。

とうろく医探訪 No.6

Produced by
地域医療連携・相談支援センター

医療法人 志水クリニック 院長：志水 明浩先生



がんセンターの先生方、スタッフの皆様日頃から病診連携を通じて誠にお世話になっております。

私共志水クリニックは守山区大森の名鉄瀬戸線大森金城学院前から徒歩5分の瀬戸街道沿いにあります。診療科は内科、消化器科、整形外科、リハビリテーション科を標榜しております。また介護保険事業にもかかわっておりデイケア、居宅介護支援事務所、訪問看護ステーションを併設しております。

名古屋市のがん検診も婦人科系以外の検診は積極的に行っております。消化器内科が専門でもあり、大腸がん検診での便潜血陽性の場合は大腸ファイバーまで、また肺がん検診では16列マルチスライスCTまでの精査は自院で行っています。

さて、がんセンターは以前から大変紹介し難い病院と思っておりました。しかし守山区の医師会会長を引き受けてから病診連携の会などから顔の見える関係となり、それからは少しずつ患者様を紹介するようになりましたところ、大変迅速に対応していただき又スタッフの皆様にも大変親切に接していただいて、がんセンターに紹介してもらって良かったと大変喜んでもらっております。今では癌の疑いがあればまず、がんセンターに紹介するようにしております。これからもかなり病状のすすんだ難しい患者様も紹介することもあると思いますが、宜しく願いいたします。

【医療機関情報】

医療法人

志水クリニック

診療科目／内科、消化器科、整形外科、

リハビリテーション科

電話／052-798-1311

所在地／463-0021

名古屋市守山区大森 1-1204

URL／<http://www.shimizu-cl.gr.jp>



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	◎ 13時まで	×
17:00~20:00	○	○	×	○	○	×	×

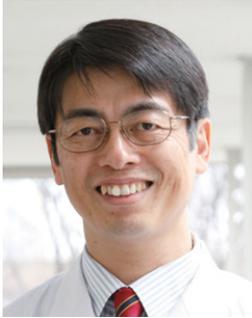
◎は内科・整形外科
受付時間：平日 8:00~11:45 16:30~19:30 土曜 8:00~12:45
※健康診断の受付は終了30分前までです。



★名鉄瀬戸線「大森金城学院前」から徒歩5分
瀬戸街道沿いにあります。

編集後記：第6回は守山区の志水クリニック、志水先生です。中部地区がん医療連携学術講演会の世話人としてもお世話になっております。地域に根差し、がん患者さん、がんの疑いのある患者さんを迅速にご紹介頂いております。これからもよろしく願いします！<Y.SANO>

悪性中皮腫治療薬の効果を予測するマーカーの発見 研究所 ～分子腫瘍学部～



分子腫瘍学部長
関戸 好孝

現在、日本では約1400人の方が新たに悪性中皮腫を発生しています。悪性中皮腫は早期発見が難しく、また有効な治療法は限られています。私たち分子腫瘍学部では、悪性中皮腫の発症原因の解明と、新たな診断・治療法の確立を目指して日々研究しています。

最近、分子腫瘍学部では、悪性中皮腫への治療効果が期待されるFAK（Focal Adhesion Kinase：焦点接着斑キナーゼ）阻害剤について詳細な解析を行いました。その結果、NF2遺伝子に変異を持つ悪性中皮腫細胞のうち、E-カドヘリンを発現しない細胞に対して顕著な効果を示すことを明らかにしました（図）。尚、NF2遺伝子はがん抑制遺伝子で悪性中皮腫の約半数の腫瘍で変異が見られることを当部で既に明らかにしています。

このように、E-カドヘリンは悪性中皮腫に対するFAK阻害剤の治療効果を予測するバイオマーカーとなりうると期待され、本研究成果は、今後のFAK阻害剤の開発に大きなヒントを与えるものと考えています。

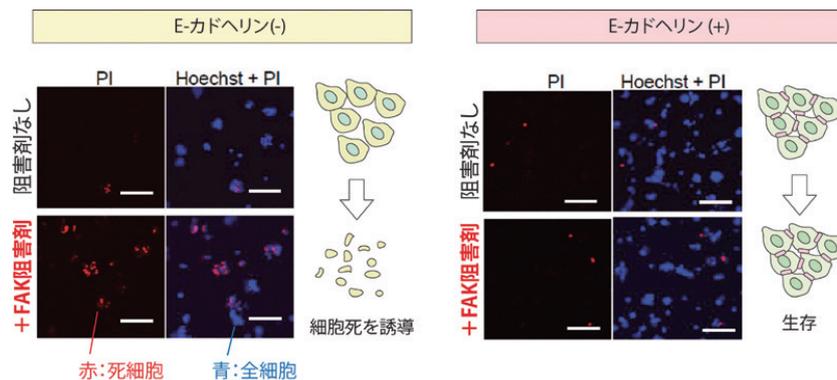


図 FAK阻害剤投与による悪性中皮腫細胞の増殖の抑制（左）NF2遺伝子変異があり、E-カドヘリンが発現していない悪性中皮腫細胞では、FAK阻害剤により細胞死が誘導されました。（右）NF2遺伝子変異があるが、E-カドヘリンが発現している悪性中皮腫細胞では、FAK阻害剤に対して抵抗性であり細胞は生存し続けました。

～ 研究所 腫瘍医化学部 スタッフの紹介 ～

腫瘍医化学部では、発がんおよびがんの浸潤・転移の分子機構を基礎的な手法を用いて探求してきました。我々は、細胞周期に携わるキナーゼとがん細胞周期の異常に着目し、新たな分子標的療法を確立しようと努力しています。また、病院の協力で、前立腺生検検体の細胞バンキングを試験的に開始しました。この生きた細胞群の比較解析から、悪性度やリスクの評価にも使える新しい指標の確立を目指します。



写真：前列左から、猪子誠人（主任研究員）、後藤英仁（室長）
後列左から、林裕子（技師）、谷川順美（嘱託技師）、
伊藤良子（非常勤嘱託員）

麻酔科部の業務内容

中央病院 ～麻酔科部～



麻酔科部長

仲田 純也

麻酔科部は手術麻酔管理を行っています。麻酔科医は外科系医師と協力し、痛みの緩和と、安全な環境の提供を心がけています。外科的手技は、生体にとって大きな侵襲であり、これを可能な限り緩和し、痛みや出血、有害な神経反射などから、患者さんを守ることが麻酔科医の大切な役割です。

麻酔科の特徴として、他科医師と共に治療を行う機会が多く、チーム医療を行うことが求められます。手術中に重大な事態が生じた場合、外科系医師や手術室看護師とコミュニケーションをとり、患者さんにとって最善と考えられる治療方法を選択して実施します。

また、必要に応じて癌性疼痛や重症患者さんの管理についてコンサルテーションを受け、処置やサポートを行います。

手術総件数は約3,000件です。平成29年度は、常勤スタッフ6名、レジデント1名で、名古屋大学および藤田保健衛生大学や近隣施設からの応援などで、手術件数を伸ばしています。

麻酔法は揮発性吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、鎮痛薬を組み合わせ、患者さんの状態に併せて選択しています。麻酔の質の向上（十分な鎮痛と穏やかな麻酔覚醒）を目標とし、静脈麻酔や超音波ガイド下神経ブロックを積極的に行っています。



麻酔科部スタッフ一同

～ 中央病院 形成外科部 スタッフの紹介 ～

がん治療では手術による根治性が求められますが、それと同時に手術後の生活の質（QOL）の維持や社会復帰が求められます。

形成外科部では、乳房再建術や、頭頸部癌切除後の食事や会話などの機能を維持・回復するための再建術などを行っています。また、がん切除に伴うリンパ節郭清後に生じた、リンパ浮腫に対する外科手術も行っています。

各診療科の医師や病院スタッフと連携し、質の高いチーム医療が行えるよう取り組んでいます。



写真：左から、奥村誠子医長、兵藤伊久夫部長、成田央良医師

緩和ケアに関するHotな情報

中央病院 ～緩和ケア部～

当院は県内のがん診療の中心的役割を担っており、緩和ケアチーム、看護外来、緩和ケア外来、などを含む緩和ケアセンターを設けています。

ここでは患者さんやご家族の体や心のつらさ、療養等に関するお金やお仕事、学校などの問題、どこに相談してよいか分からない困りごと等に対応し、解決に向け一緒に取り組みます。一人一人の生き方や考え方、取り組み方に沿った方法で解決策を練るためには多角的に考える必要があります。三人寄れば文殊の知恵といったところです。緩和ケアチームには文殊の知恵を出すために看護師、薬剤師、医師、ソーシャルワーカー、理学療法士などのメンバーが揃っています。

今年度は厚生労働省からの要請にて、県内各地域がん診療連携拠点病院の緩和ケアチームメンバーと、話し合い、知識や能力を高め合う研修会を開催しています。質の高いチームにするための取り組みを、実習を通じ話し合います。私たちは、みなさんのお力になれる緩和ケアチームでありたいと思いますし、そういうチームが県内各所で広がるよう取り組んで参ります。

緩和ケアチームは決して成すすべがないから提案されて関わるチームではありません。皆さんが少しでも良い状態で安心して治療を受けられるための環境作りを一緒にさせて頂くお手伝いをするチームです。是非緩和ケアチームを知って頂き、上手に活用してください。



研修会修了式の様子



緩和ケアチームメンバー



～ 中央病院 血液・細胞療法部 スタッフの紹介 ～

当部は、悪性リンパ腫、白血病、骨髄腫などの血液がんに対する診断と薬物療法や造血幹細胞移植などによる治療をおこなう診療科です。薬物療法による治療では、通常の抗がん剤治療に加えて、分子標的療法が導入され、治療成績が向上しています。更なる治療成績の向上を目指して、分子生物学的手法を用いた診断法と臨床試験や新薬の治療に積極的に取り組んでいます。



写真：左から、古川勝也医師、入山智沙子医長、山本一仁部長、加藤春美医長

谷田部 恭 遺伝子病理診断部長

「Mary J. Matthews Pathology/Translational Research Award」受賞

Mary J. Matthews Pathology/Translational Research Awardとは

これまで胸部悪性腫瘍の病理・トランスレーショナルリサーチで著明な成果を挙げた研究に与えられる賞で、現在の小細胞癌・非小細胞癌の枠組みを確立したNCI（アメリカ国立がん研究所）の病理医 Dr. Mary J. Matthewにちなんで設けられた賞です。

2017年10月15日から18日に開催されたWCLC（世界肺癌会議）で、IASLC（世界肺癌学会）から授与されました。



医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科 (サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)

※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)

※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分

市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分

名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索